

國學院大學 北海道短期大学部 学報

発行所
國學院大學
北海道短期大学部
〒073-0014
北海道滝川市
文京町三丁目1番1号
TEL
0125-23-4111(代)

才能と人格を磨き、志を高く

國學院大學北海道短期大学部 学長 田村 弘

国柄へのまなざし

國學院大學は、我國の歴史・文化・宗教の分野において世界有数の研究活動を行っている大学と評価されている。北海道短期大学部は、その学統を受け継ぐ短期大学である。

日頃、私たちはあまり意識しないが、日本は世界でも稀有な国柄を持つ国らしい。碩学によるいくつかの歴史的事実を紹介しよう。

○ 世界の四大文明は、自然をはじめ厳しい条件を克服しようとして誕生したが、日本ではそれらに匹敵するも全くタイプの異なった「縄文文明」を生んだ。

○ 世界には、前世紀の高い文化を示す建造物がたくさんあるが、それらは遺産であり廃墟である。法隆寺は今に残る世界最古の木造建築であり、正倉院は現存する最古の博物館といえる。千三百年前に始まった伊勢神宮の遷宮が今も営まれて人々が参拝し、千四百年前の法隆寺が今も生きている。

○ 日本の国柄を初めて示したのは聖徳太子が定めた「十七条憲法」であり、民主主義の根本を述べたものである。世界最初の成文憲法はアメリカ合衆国憲法といわれるが、その成立の千二百年も前のことである。

○ 源氏物語は、世界最古の長編小説である。この作品が世界に紹介されたとき、およそ千年も前の日本で、細やかな情感を持ち、絢爛たる文化が開花していることが驚嘆された。そのためには、日本の歴史・文化・宗教などについて語るべき内容を持ち、国を愛し、自尊心、自立心を磨かねばならぬ。世界の人々は、そのこと

を最も大切にしているからである。

共創の時代の担い手
日本人のもつ構想力と先見性、歴史と伝統の豊かさに驚く。私たちは、日本のことをもっと知り誇りを持つべきだ。国を知る者はその国を愛し、地域を知る者はその地域を好きになるのは道理である。

成熟期を迎えた日本の社会は、地方創生の時代を迎えている。「地方創生」は、人々が知恵と力を合せて新たな可能性を切り拓いてゆく「共創」の社会である。やがて諸君は、その担い手となる。本学で学ぶことは、日本と地方の双方を理解し、新しいパラダイムで日本を創っていく基礎的素養を育む。このことは決して自画自賛ではない。国家があつて地方が成り立ち、地方があつて国家が成り立つのである。本学の立地は、その双方を見つめ、学び、体験できる環境にある。

『つひ山ぶみ』のこと
天皇の保持する三種の神器は、神勅によれば三つの徳（鏡は正直、玉は慈悲、剣は知恵）を表すという。これが日本人の道徳の原点といえる。國學院大學の建学の精神の第一は日本の国柄の講明であり、第二がこの徳性の涵養である。

また、日本の精神文化を語る言葉として「もののあわれ」「わび・さび」がある。「もののあわれ」は、日本の古典の中から本居宣長が見出した日本人の

特質とされている。これらは消極的、退廃的な意味にとらえられがちであるが、侘茶に見られるように日本人の持つ強い意思、現実への厳しい洞察力、伝統と新しい創造のエネルギを背景にあわせ持つのである。

「国学」は、我國固有の国民性や文化を見出す学問である。国学の大成者本居宣長は、その入門書である『つひ山ぶみ』に学問の心得を示している。

「学問は、長く倦まず怠らずに励み努めるのが肝要である。才能のあるなし、学ぶことの早いか遅いか、暇のあるかないかなどによって挫折してはいけない。努め励めばできるものだ」

「学問の道を進めることは難しいが、奥を究めようと初めから志を高く大きく掲げて努め学べべきだ」

修学の基本は、古今東西変わらない。

宣長は、昼間は医師としての仕事に専念し、研究と教授は夜に行つた市井の学者である。これらの言葉をかみしめて励みたいものである。



図書館で自己を磨く



人間国宝・狂言師山本東次郎師の講義



みんなで創る「ありす祭」



好評の幼児保育コース「ありす座」公演

学ぶことの多い 充実した日々



国文学科
真島啓輔

この國學院北海道短期大学部で過ごした2年間は、新たな発見と、様々なことを経験した2年間でした。北海道という土地は、自分にとって未知の場所であり、そこで初めての一人暮らし、初めての大学生活と最初は不安が大きかったです。しかし、気の合う仲間が出来、サークル活動や、興味深い講義を受ける日々は充

実し、大変楽しいものでした。学業面では、私は神道や宗教に興味があったので、国文科に入り、森悟朗先生のゼミに所属していました。専門的な授業はついていくのが大変なこともありましたが、楽しく、日々学んでいることが自分の力になっていったと思います。また、菅野先生森先生にはお祭りの見学に連れて行っていたり、お話を聞いたり、体験をしたり、お話を聞いたり、研究する際にはどのような視点でお祭りを見るべきか、など様々なことを学びました。

また、私は学外の活動として、先輩の勧めで吟剣詩舞の「和翔流」に所属していました。様々な世代の人たちと一緒に稽古をし、交流するのは楽しく、得難い体験であり、自分自身舞台上に上がらせていたなど、様々なことを学べました。また滝川との大切なつながりの一つになりました。

入学してからの思い出はさまざまであるが、なんと言っても卒業式と入学式で国歌と校歌を独唱させていただいたことが思い出される。ある日、松田先生から突然に「次の卒業式と入学式で国歌と校歌を歌って頂きたい」と言われた。入学してからの思い出はさまざまであるが、なんと言っても卒業式と入学式で国歌と校歌を独唱させていただいたことが思い出される。ある日、松田先生から突然に「次の卒業式と入学式で国歌と校歌を歌って頂きたい」と言われた。

鼻濁音



幼児・児童教育学科
幼児保育コース
大森 忠

「君が代」の冒頭では「が」の発声を何度も指摘された。「が」は鼻濁音で発声しなければならぬのである。多分、多くの日本人が忘れてのことである。さ

すがはプロの歌手でもある松田先生らしく細かい部分も疎かにされない姿勢には大きく学ぶべき点があったと考えさせられた。このことは歌うこと以外のあらゆるものに通じている。先生は歌を通じてこの大切なことをお教え下さったのではないかと私は考えている。松田先生だけではなく、多くの先生方からこの学び舎で「学問」以外の大切なことをお教えいただいた。紙幅の都合ですべてご紹介できないのは大変残念であるが人生の節目ごとに先生方の言葉を感謝とともに思い返し今後の人生に役立てて行きたいと考えている。

語れる2年間



総合教養学科
松原大悟

「語れる2年間にしよう」。これは短大に入学してからある先生が授業などで折に触れて繰り返し仰っている言葉です。この2年間は振り返り、どれだけ語れるものに出来たかをここで試されているかと思うと「もつと色々やっておけば・・・」と後悔が絶えませんが、それでも学べた事は決して少なくないと思います。

まず、滝川や初の一人暮らしといった環境は自分にとって新鮮で特殊なモノでした。入学時は北海道楽しそうだなあ」と旅行気分だったのも束の間、それは滝川の異だったのだと思ひ知る事となります。近頃は暖冬とか言いますが十分に豪雪地帯ですし不便な事もありました。しかし、そんな環境に鍛えられて精神的に強くなった気がします。

一人暮らしも未知の体験です。ご飯とは時間になったら勝手に出てくるモノ」と本気で信じていた親不孝者は私だけかもしれないが、それは当たり前前の事ではないのだと気付く、親の苦労と有難さを知りました。

サークルでは地域のラジオコミュニティに、一方ゼミではまちづくりに携わり色んな人と交流する事の楽しさに気付きました。加えて、どんな活動をするにも一人で動くには限界があり、そんな時は決まって周りの人に助けられ、自身の未熟さと繋がり的重要性を同時に学びました。卒業してもこの経験と繋がりを大事にして行きたいです。社会に出て行く上で人との関わりは避けられないでしょうし仕事なども周りと協力する必要があると思います。そこで役立てられるであろう多くの事をこの2年間で学べた事、少なくとも指定の6000字程度語れた事は自分にとって大きな利益だと感じています。

二年間の思い出

二年間を一緒に 充てこした仲間と



幼児・児童教育学科
児童教育コース
丸山らん

不安と共に入学したあの日から2年が経とうとしています。振り返ると、この2年間は私にとってかけがえのない経験となりました。

「起こることには、すべて意味がある。」「人は必要な時に、必要な人と出会う。」などとよく言いますが、北海道の短大に来て児童教育コースの先生方や素敵な仲間に出会い、多くの方々に支えられながら学べたことは、まさに私が夢に近づいたために必要不可欠でした。

児童教育コースでは、少人数だからこそ実践に近い形で模擬授業ができた実体験を通して学べる環境が整えられています。特に、模擬授業では授業のイロハや児童の立場に立つ指導する大切さについて多くを学びました。常に、自分自身のこととして教師や児童の視点に立つて考える講義は、先生方の教えのおかげで教師としての在り方や自分自身を見つめ直すこと、価値観、物の見方や考えの拡大に繋がっていききました。その学びで培った力が、教育実習で一番発揮されたように思います。

また、この2年間に一緒に過ごしてきた仲間の存在はとても大きく、児童教育コースの仲間がいたからこそ、学習面でも生活面でも切磋琢磨し合い毎日の生活が充実して、どんな時も乗り越えることができました。

今の私があるのは、短大の日々、先生方や仲間、さらに実習校の先生方や子どもたち、地域の方々など多くの人々との出会いと出来事のおかげです。その全てに感謝の気持ちでいっぱい。感謝の気持ちを大切に夢の実現に向けて頑張っていきたいと思っています。

一年間の中で 得たものとは



専攻科福祉専攻
飯原 敏生

私はこの福祉専攻科に入学してきたことを誇りに思います。これまでの人生では経験する事の出来なかった、仲間と力を合わせる事の素晴らしさと、自分自身の気づけずにいた部分を知ることができたからです。

入学した4月から6月の期間で、私は自分の未熟な部分に気づき、それをクラスメイトや先生方の支えによって改善することができました。今までは、物事を瞬時に判断し行動すると言う事が出来ませんでした。自分が他の人より多く熟さなければならぬと言う事と、疑問に思った事を質問し、しっかり解決しなければならぬ責任があると言う事を自覚することができました。

7月から8月は第一実習の期間であり、人生初の介護福祉を体験した時期でした。7月はデイサービスとグループホーム、8月は訪問介護でした。実習に入るまで、私はちゃんと利用者さんとのコミュニケーションをとれるのかと言う事が不安で、当日

かと言う事が、とても不安でした。ですが利用者さんは、こんな私を笑顔で迎えてくださり、気づくと自然にいろいろな事を話していました。改めて思い返すと、私は利用者さんが日常をどの様に過ごしているのかと言うことを知り、何か共感できるような遊びや、出来事がないかと言う事を探りながら会話をしていたことが、良い影響ではなかったのではないかと感じます。

9月までに学校で学ぶ基礎のおおよそを終え、いよいよ10月から11月の第二実習を迎えました。この実習では特別養護老人ホームの実習先になり、どの様な場所なのかと言う事が不安で、当日

平成29年度
國學院大學編入学合格実績

○国文学科	30名
文学部日本文学科	13名
文学部史学科	13名
神道文化学部神道文化学科	4名
○総合教養学科	45名
文学部外国語文化学科	8名
文学部哲学科	2名
法学部法律学科	5名
経済学部経済学科	10名
経済学部経済学科	9名
経済学部経営学科	11名
○児童教育コース	26名
文学部 日本文学科	2名
文学部 国文学科	4名
経済学部経済学科	1名
人間開発学部初等教育学科	7名
人間開発学部健康体育学科	7名

退職者挨拶

新装なった体育館に三六五人第1期生を迎えたあの日(昭和57年4月16日)が、昨日のことのように思い出されます。

この三月に学舎を巣立られる第34期生の皆さんの前途が洋々でありますよう心より祈念いたします。

私事で恐縮ですが、自分自身も、皆さんと世代もこの大学に関わった時期も異なりますが、同期で卒業させていただくこととなりました。



事務局長
平野 富康

在職中にご指導ご鞭撻を下さった先輩、上司の方々、共に喜びや悲しみを分かち合った同僚の皆さんに感謝・感謝の気持ちで

会や人と関わりながら生きていくべきかと、人生のパートナーである妻と考える時が来たように思います。

この大学の歴史は、35年の今年が中今だとすると、更に35年、

4月から現職。

センター課長、コミュニティカレッジセンター課長を経て、平成12年4月事務局長次長、平成22年4月から現職。

一杯です。そして何より、関わらせていただいた多くの学生の皆さんとの思い出も、未だ鮮明です。

気が付くと、早や35年。人生80年とすると残り15年、どう社で再会することを楽しみにしております。

そして未来永劫、数多くの卒業生の心のふるさととして成長し続けていくことを願っております。

また、いつかこの校舎で笑顔で再会することを楽しみにしております。

平成28年度卒業生の皆様へ卒業おめでとうございます。皆さまに支えられ10年間、國短にお世話になり退職を迎えることになりました。



健康相談室長
島貫 典子

健康相談室では、朝は遅刻しないよう一目散に登校し、顔が真っ青になり倒れ込んで来た

り、また慣れない自転車転倒してしまいい、手足に擦りキズをいっぱい作り来室した学生さん。中には、特別なダイエットをした訳でもなく入学以来、体重が20キロも減少している学生さんもあり、また「僕の料理はちやちやと出来るん

と、「滝川に来て良かった」と話していました。さらに編入学ができたことや就職が決まったことも報告に来て下さり、喜びを言葉や握手で分かち合ったことも大変良い思い出になりました。

と致します。ありがとうございます。

■平成19年4月、健康相談室相談員採用。

平成24年4月から健康相談室長。

平成28年度 学内団体活動実績一覧

団 体 名	活 動 内 容	月 日	場 所
男子バスケットボール部	合宿	4月30日～5月1日	芦別
	北空知一般結成大会	5月15日	芦別
	北海道地区大学体育大会	7月16日・17日	旭川
	北空知地区クラブ連盟大会	7月24日	妹背牛
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	10月1日・2日	北見
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	10月15日・16日	帯広
	北空知地区秋季一般選手権大会	11月13日	砂川市
女子バスケットボール部	合宿	4月30日～5月1日	芦別
	北空知一般結成大会	5月15日	芦別
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	6月2日・3日	北見
	北海道地区大学体育大会	7月16日・17日	旭川
	北空知地区クラブ連盟大会	7月24日	妹背牛
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	10月1日	札幌
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	10月8日・9日	室蘭
	北海道大学バスケットボール部選手権大会	10月15日	札幌
	北空知地区秋季一般選手権大会	11月13日	砂川市
サッカー部	知事杯全道サッカー選手権大会旭川地区予選	6月19日	旭川
軟式野球部	北海道地区春季大会	5月19日～31日	札幌
裏千家茶道部	垣開き	11月23日	本学
	送別茶会	2月19日	本学
煎茶部	合宿	10月23日・24日	滝川
軽音楽部	新入生歓迎ライブ	5月6日	本学
	ありす祭ライブ	6月18日	本学
	ハロウィン・オースタムライブ	11月11日	本学
	拓殖大学合同ライブ	12月16日	深川
	クリスマスライブ	12月22日	本学
	卒業ライブ	2月12日	本学
	学内公演	4月22日	本学
演劇サークル	ありす祭公演	6月18日・19日	本学
	10月公演	10月28日	本学
	卒業公演	1月15日	本学
	卒業公演	1月16日	滝川
	卒業公演	3月7日・8日	登別
近古文書研究会	合宿	3月7日・8日	登別
園芸サークル	収穫祭	7月24日	滝川
日本伝統図画研究会	合宿	2月13日・14日	札幌・小樽・余市
短歌・俳句サークル「月晴会」	合宿	2月17日・18日	小樽
手話同好会	視察	11月13日	深川
イラスト研究会	視察	3月18日～21日	東京

※大学への届出による活動



演劇部「学外公演」



軽音楽部「ありす祭」



男子バスケット部「試合」



軟式野球部「引退試合」

惜別

林 陸朗 第三代学長



國學院短期大学元学長の林陸朗先生が平成29年2月17日入院先の病院で肺炎のため逝去されました。享年91歳。

林先生は昭和24年3月國學院大學文学部史学科を卒業され、大學文学部史学科を卒業され、

つながらる行事の基礎を築かれた。平成3年4月から平成8年3月までの間学長を務められた。1925年生まれ。

灘本 勝 先生



元国文学科教授の灘本勝先生が平成28年4月8日入院先の病院で逝去されました。

配島 成光 先生



元国文学科教授の配島成光先生が平成29年1月2日逝去されました。

和22年生まれ。北海道教育大学札幌分校を昭和45年3月卒業後、小学校教諭として北海道内の各小学校で教鞭をとられた。平成19年3月札幌市立山田小学校校長を最後に定年退職。平成20年4月本学資格・教養科目課程准教授就任。平成26年4月国文学科教授。中学校教職課程の科目を担当される。

■国語科教育法、教育課程論、生徒指導、教育実習等担当。

校務としては、教務委員長、FD委員長、入試委員等の要職を務められ、主に教務システムの実践、教員採用試験実績の向上に取り組まれた。平成28年3月体調不良を理由に定年を1年残して退職された。

■国語学概説、国文基礎演習、国語学講義、国語史、卒業論文等担当。

この講演会は、國學院大學の持つ知的財産を広く地域に開放し、地域活性化に資することを目的に開催したもので、昨年に続いて2回目の企画である。今回は國學院大學経済学部教授 紺井博則先生を講師に「まさかのブレイグジット、まさかのトランプ、まさかの世界経済」と題して、英国のEU離脱や米国のトランプ大統領誕生など世界が「まさか」と驚くような結果が出たことが、世界の政治・



経済に及ぼす影響、日本に与える影響について平易に解説いただいた。講師の紺井先生は函館出身の道産子で、本学の集中講義には毎年のようにお越しにたいいて

第2回地域創生セミナー 「地域活性化戦略」を考える

第2回 地域創造セミナー 「地域活性化戦略」を考える

地方消滅が懸念され、「地方創生」が叫ばれています。金融論・国際金融論の研究者が豊富な知識と情報を駆使して「世界経済の今」を分析・解説します。



本年1月20日就任のトランプアメリカ合衆国大統領の米国第一主義や3月31日のイギリスのEU離脱（ブレイグジット）などが、世界の政治・経済に大きな影響を及ぼすと予想されています。日本やこの地域にはどのような波紋が生まれるのでしょうか。国際金融の専門家からマクロ経済学の視点から、これから占います。

演題：『まさかのブレイグジット、まさかのトランプ、まさかの世界経済』

講師：國學院大學経済学部 紺井 博則 教授
(同大学大学院経済研究科幹事)

日時：平成29年2月16日(木) 午後3時

会場：國學院大學北海道短期大学部 402教室 (4階)

入場無料

申込み、及び問合せ
國學院大學北海道短期大学部事務局
☎0125 (23) 4111番
当日直接来場でも結構です。

主催 國學院大學北海道短期大学部に関する地域連携協議会
(構成：滝川市・滝川商工会議所・國學院大學北海道短期大学部)
後援 一般財団法人 滝川生涯学習振興会

いる。特に國學院大學経済学部へ編入学を目指す学生を対象に「金融の基礎」「世界の経済」等の授業を行っている。セミナーは日中の時間設定であったにもかかわらず、百名を超える来場者を見た。滝川市内だけでなく砂川や歌志内からも広く集まり、講演内容が話題性に富んでいることを表していた。参加者の一人は「誰もが注目している内容だけに、とても興味深かった。自分もトランプが大統領になるなんて思ってもいなかった。TPPの問題や、輸出産業を多く抱える日本の経済にどのような影響があるのか注視していきたい」と語っていた。なお、同協議会は、滝川市、滝川商工会議所、國學院大學北海道短期大学部の三者で構成される会で、本学の運営支援及び発展に資することを目的に組織されたものである。

「金融の基礎」「世界の経済」等の授業を行っている。セミナーは日中の時間設定であったにもかかわらず、百名を超える来場者を見た。滝川市内だけでなく砂川や歌志内からも広く集まり、講演内容が話題性に富んでいることを表していた。参加者の一人は「誰もが注目している内容だけに、とても興味深かった。自分もトランプが大統領になるなんて思ってもいなかった。TPPの問題や、輸出産業を多く抱える日本の経済にどのような影響があるのか注視していきたい」と語っていた。なお、同協議会は、滝川市、滝川商工会議所、國學院大學北海道短期大学部の三者で構成される会で、本学の運営支援及び発展に資することを目的に組織されたものである。

行われました。1日目の午前中は、2人1組で相手に言葉を伝えることの難しさを学ぶペアワークをしました。午後からは、自己PRと学生時代に力を注いだことを書きました。この2つは書き終えるごとに拓殖短大と國學院短大の先生方に添削していただき、少しずつ完成させていきました。内容が決まっても限られた長さの文章で自分のことを伝えなくてはならないので、とても時間がかかりました。2日目の午前中は、グループディスカッションを行い、どこに気を付けるか、試験官にどこを見られているかを教えていただきました。午後からは、模擬集団面接をしました。面接は3回行い、その都度いただいたアドバイスを改善し3回目の面接では1回目比べ良くなったのではないかと、言葉をいただきました。3回目に関しては、面接官を務めた横部さんの隣に座り面接を見まがし、見ていた自分が緊張してしまうほどの空気感でした。この2日間の合宿で学んだことは今後の就職活動に活かせることばかりでした。自己PRを考えることや模擬面接をするのは、大変でしたが終わってみると合宿に参加して良かったと思えました。これからの就職活動に今回の合宿で学んだことを活かしていきたいと考えています。



就活合宿に参加して

私は2月26日、27日の2日間で行われたキャリアセンター企画の就職合宿に参加しました。就職合宿は、講師に就職の横部延寿さんを迎え、拓殖大学北海道短期大学との合同で、1日目はふれあいの里に泊まり込みで、2日目は学内で

出前講座について

平成28年度 出張講座実績一覧

	団体名	テーマ	実施日	時間	会場	受講者数	派遣教員
1	市立函館高等学校	現代短歌で遊んでみよう (2回講義)	6/28	120分 1回60分	市立函館高等学校	60名 1回30名	月岡道晴 教授
2	北海道遠軽高等学校	小論文講座	7/19	100分	北海道遠軽高等学校	40名	播摩光壽 名誉教授
3	滝川市役所	初心者向けノルディックウォーキング講座&実技「はじめてのノルディックウォーキング講座」	9/15	180分	滝川市保健センター2階	20名	田中一徳 准教授
4	滝川市教育委員会	「幼・保・小連携を充実させるために」～子供たちの指導に活用できる具体的な取り組み～	10/25	50分	滝川市立第一小学校	40名	田中一徳 准教授
5	北海道奈井江商業高等学校	絵本の読み聞かせ講座	11/29	50分	北海道奈井江商業高等学校	35名	松村澄絵 特任准教授
6	たきかわ雛祭りの会	日本人の美しい暮らし…雛祭り	2/26	40分	ホテル三浦華園	150名	森悟朗 准教授
7	北海道滝川西高等学校	リーダーシップ養成講座	3/22	60分	北海道滝川西高等学校	30名予定	田中一徳 准教授

本学では、学内の知的財産を活用した無料出前講座を実施しています。高校の先生に向けた講座、生徒に向けた講座、一般市民向け講座とテーマを多数そろえ、全部で48テーマを揃えています。是非ご利用ください。

國學院大學北海道短期大学部
総合教養学科
大道 佑 香